



第75回“社会を明るくする運動”長野県作文コンテスト表彰式



第642号

きっと本当に大切なのは愛なんですよ

前 長野地方検察庁検事正 北岡 克哉



昨年四月に長野に着任してからの約一年半で、日常的な検察業務はもちろんのこと、社会を明るくする運動、長野更生保護大会等、様々な機会、保護司を始めとする更生保護活動に携わる皆様の御活躍を見せていただきました。日々の御努力に心より敬意と感謝を申し上げます。

刑法改正により、令和七年六月一日から刑の執行猶予制度が拡充され、保護観察付執行猶予期間中に更に罪を犯した者についても、再度の執行猶予を言い渡す道が開かれました。今後、保護観察をより積極的に活用していくことが望まれます。

長野地検では、今回の法改正をきっかけに保護観察所との連携を深め、初犯者であっても早い段階で指導を行うことが有効だと思われる被告人に対しては、事前に保護観察官のアドバイスをいただいた上、論告で、積極的に保護観察付執行猶予の刑に処すべきこと及び具体的な特別遵守事項を主張するようにしています。

たとえ一度は道を踏み外したとしても、更生意欲を持つ者に、保護司の皆様方と出会える機会を増やし、再犯を防ぐことができれば、犯罪の被害に遭う方が減り、対象者も社会の一員として幸せになり、一般国民の方も治安の良さを実感できるようになります。犯罪はなかなか根絶できませんが、皆様のお力で、みんなが幸せになれる社会を作っていくことは可能だと信じております。

皆様も、保護局のキャラクターである可愛いペンギンのホゴちゃんやサラちゃんをご覧になったことがあろうかと思えます。悪いことばかりする非行ペンギンだったホゴちゃんとサラちゃんも、保護司のクジラ先生や協力雇用主のアシカ親方など、色々な人とのふれあいを通じて立ち直り、非行（飛行）しない更生（皇帝）ペンギンとなり、今では法務省で大活躍しています。

私のこれまでの経験からくる実感として、非行や犯罪をした人が立ち直るのは、恋人や家族ができたときか、本当に尊敬できて頼れる方と出会えたときが多いと感じています。たしかに、刑罰の本質は応報です。しかし、人を変えるのは愛や信頼なんだと感じることが多い毎日です。

（令和七年十一月執筆）

第75回

”社会を明るくする運動“

長野県作文コンテスト

(長野県推進委員会)

長野県下の小中学生の児童・生徒の皆様から、小学生五、〇八七点、中学生四、二八九点、合計九、三七六点と、多数の作文応募がありました。その中から、長野県作文コンテストにおける最優秀作品について、本誌面にてご紹介させていただきます。

●小学生の部 最優秀賞

おたがいうれしい
笑顔あふれる社会

諏訪市立豊田小学校・五年

茶木 歩果

私の近所では、今年、奥さんが亡くなつてしまい、一人ぐらしをしているおじさんがいる。入院も時々するし、さんそきゅう入の機械も、つけている。そのおじさんが一人ぐらしを始めてから、母は作った料理を一人前ほど時々とどけ始めた。

ある時、私も初めてとどけることになった。あいさつはしたことがあっても、初めて話すおじさんだ。不安ながらも、料理の説明をすると、ニコニコと、おじさんが、

「ありがとうね。ありがとう。」

と言った。心の底から言っているようだった。私はそれを今でも鮮明に覚えている。

私は、きちんととどけられてうれしかった。それに、笑顔でお礼を言ってくれていて、うれしかった。笑顔が私をうれしくさせてくれた。おじさんは、料理を作るのが大変そうで、こきゅうをするのも大変なようだ。奥さんもないし、子どもは遠くに住んでいる。さびしいと思う。だからだれかが来ると、とてもうれしいと思う。

とどけている料理のお皿を返してもらった時、毎回きれいな折り紙のつるや、紙飛行機をくれる。つるは二種類、紙飛行機は何種類も折つてくれる。紙飛行機で遊ぶと、部屋のすみまでよく飛ぶ。

私の学校のイベントで、紙飛行機

大会があった。私は、紙飛行機が苦手だ。困っていたら、おじさんが思いうかんだ。教えてもらおう！教えてもらったのは、つる二種類、紙飛行機三種類だ。ゆつくり、わかりやすく、一緒に折ってくれた。おかげで、紙飛行機が苦手な私も全部折れた。おじさんもうれしそうだったし、私もとても満足だった。

大会本番。私は、どうか一位になりますようにと、教わったとおりに力を弱めに上向きにふつと投げた。すると、なんとフワフワとたい空時間では、参加者の中で一位になった。私は初めて一位になって、うれしくてたまらなかった。おじさんに話すと、良かったと言ひ、あく手を求めてきた。もちろん私はあく手を返した。

一人でくらししていて、おじさんは、一人で過ごすことが多く、さびしいと思う。でも、私が料理をとどけに行くと、だれかと話せて、さみしさも一気に消え、うれしいと思う。だれかに会うこととおじさんはうれしくなる。

私はおじさんがうれしそうにだけでもうれしい。今日もがんばるかとか、料理、好きそううれしい！とか、元気になれる。私も思わず笑顔になれる。

はん罪や非行をしてしまう人は、さみしさや悲しみで、つらくなり、人なんてどうでもよくなつてしまつ

た人だと思ふ。それでも、たよれる人や、話せる人がいれば、支えてもらいながらでも、一緒にがんばろうと思ふと思う。私が最近見たニュースで、お金がないし、さみしくて、人をころしたというのがあった。その人に、話せる人がいれば、きつと、なやみも話せたし、さみしさもうすれたと思う。私は、その人がかわいそうだった、さみしくなかつたら、たよれる人がいたら、はん罪や非行をおかさずに、うれしい生活ができたかもしれない。そう思うと、たよれる人や話せる人がいることは、みんながうれしくなる地域作りで大切なことだと思ふ。

私とおじさんは、おたがいにうれしくなつていた。助ける人、助けてもらう人がおたがいに、助けたり、助けてもらつたりして、笑顔になっていた。その関係が地域で沢山あれば、地域はもっともりあがり、人をみんなおたがいに大切にしていけると思う。

これから私は、さみしい人、悲しい人に最初によりそう「だれか」になりたい。きつとだれかがやるとか、放置して、人と人との関わりをつながない人ではなく、自分から人と人の関わりをつなぐ人になりたい。さみしい人、悲しい人が、笑顔でニコニコ笑える社会にしたい。私は、人を笑顔にする喜びがわかつた。私まで笑顔になれるところが、とても

うれしい。私も地域の人もみんなもニコニコと笑顔になれる社会を作っていきたい。

●中学生の部 最優秀賞

今日を明るく過ごすために

東御市立東部中学校・二年

堀内 夏葉

私の母は、朝早く起きて洗濯や朝食作りなどの家事を全て一人で済ませ出勤する。少し前まで、母は私とほとんど同じ時間に家を出ていた。しかし、最近は仕事が忙しくなり私よりも早く出勤するようになった。そんな生活が始まった頃、私はその小さな変化を気にせず、いつも通りに過ごしていた。

けれど、忙しそうに毎日過ごす母を見ているうちに、私は日常の変化を実感するようになった。母は仕事から帰るのも遅くなり、帰宅後も休まず家事をしている。私には、母にとって日常が苦しく感じているように見えた。前のように学校や仕事のことをお互いに話す時間も減った。私は、忙しい母に声をかける勇気が出ないままだった。

「たまには休んでね。」

たくさん話せなくてもいい。ただ、少しでも母の生活が楽になってほし

いと思った。

そんなある日、私は学校で友人に強く当たってしまった。何か嫌なことをされたわけでもないが、きつい言葉をぶつけた。自分でもどうすればいいのかわからなくなってしまう。その日から、私は友人を避けるようになった。そして理不尽に当たったことを謝れない自分自身に嫌気がさしていた。そんな心情を抱え、悩みながら数日を過ごした。けれど、私の心は落ち込むばかりで、時間の経過は無意味だった。

（お母さん、話聞いてくれるかな。）
今日はどうしても話がしたい。そう思った日があった。もうこんな自分は嫌だと思い、家に帰った。

「ただいま。」

「おかえり。」

母の声を聞いた途端、私は涙が止まらなくなった。この涙が私にとって「助けて」というサインだった。私の顔を見た母は驚いた表情をしながら、すぐにタオルを差し出して、私を抱きしめてくれた。そして母は、私が全てを話せる空間を作ってくれた。久しぶりの私と母が向き合える時間にうれしさが溢れた。その後、私は母に友人との出来事を話した。私が悪い行動をとったことは母に伝わったはずだ。それなのに、母は優しい笑顔を見せた。

「大丈夫だよ。一人で頑張ったね。」

そう言っ、私のことを受け止めて

くれた。私はそれを聞くと、今まで抱えていた不安が一気に軽くなった気がした。

私は今の自分と向き合い、変わろうと思った。次の日、勇気を出して友人に謝った。声を絞りながら、不安に押しつぶされそうになった。すると友人は

「気にしないで。ずっと一緒にいようね。」

と笑って答えた。その一言に、私は安心と嬉しさが胸がいっぱいだった。

その日から、今まで母との間に感じていた距離も戻った気がした。私が学校の出来事を楽しく話せるようになってからは、母も笑顔で聞いてくれる。母は私との会話を楽しんでくれるように感じた。些細な対話が、私と母の心の支えになっていくことを知り、その対話が日常に戻ってきたことが嬉しかった。

私が大切にしたいのは、心の不調を和らげ自分を受け止めてくれる空間だ。生活する上で、心の不調は誰もが抱えるものである。この中には、辛さや不安、劣等感などがあり、人の感じ方によって違う。これらが大きくなると、普段通りの生活が送れなくなったり、正しくない行動をとってしまう原因になると思う。これが、犯罪や非行を犯してしまうことへとつながるのではないだろうか。

だから、誰もが心の不調を和らげる空間を持つことが大切だ。自分の心が限界になる前にSOSを出せる手がいれば、心の不調が大きくなるのを防ぐことができると思う。

しかし、心の不調をケアすることができずに、犯罪や非行を犯してしまう人がいる。これは、私が友人に強く当たってしまったことと似ていると思う。けれど、そんな時でも私を受け止めてくれた母や友人の支えが大きな救いになった。この支えがあったことで私は今、前向きに人と関わる事ができるのだと思う。それと同じように、犯罪や非行を犯してしまった人の事実を受けとめ、支えとなる空間が必要だ。これは、その人が将来を明るく生きる、大きな力になる。そのために私たちができるのは、周囲の人の温かさにふれ、お互いを認め合う心を大切にする。そして、自分も相手を支えようとする気持ちをお互いに忘れないことだ。これは、きつと一つの助け合いにもなる。そして誰もが認められ、自分の在り方に自信を持てる社会になれば良いなと思う。

今日を明るく過ごすために、
「ありがとう。行ってらっしゃい。」

この言葉を、毎日母に伝えていこうと思う。

これが、私たちの明るい未来をつくる大きな一歩になるはずだ。



お知らせ

社明作文コンテスト表彰式



一月五日、長野市のホテル国際21において、第七五回「社会を明るくする運動」長野県作文コンテスト表彰式が催されました。長野県下においては、小学生五、〇八七点、中学生四、二八九点、合計九、三七六点と、

皆様から多数のご応募をいただきまして、ありがとうございました。当日は、一八名の児童・生徒の皆様と、その保護者や家族、教師、保護司など、総勢約八〇名の皆様にご参加いただき、表彰式が執り行われました。



引き続き、小学校の部及び中学校の部の最優賞秀作品の六名の作文朗



読発表がありました。児童、生徒の皆様のことを「信州しらかばっ子の主張」作文集に収録しましたので、一人でも多くの皆様にお読みいただけると幸いです。



保護司法等の改正について

保護司の担い手確保や活動環境の改善、安全確保を柱とする「更生保護制度の充実を図るための保護司法等の一部を改正する法律」が昨年一月三日に成立、同月一〇日に公布されました。詳細は別途お知らせいたします。

二月の行事予定

- 三日(火) 保護司特別研修 (松本市総合社会福祉センター)
- 四日(水) 長野県更生保護女性会三役会 松本地区保護司会定例研修会
- 六日(金) 上伊那地区更生保護団体等 合同研修会
- 二日(木) 保護司・更生保護女性会・BBS会員連携強化研修会 (JA長野県ビル)
- 一六日(月) 長野県保護観察協会三役会、長野県保護司連合会常任理事会
- 二〇日(金) 須高地区保護司会定例研修会
- 二七日(金) 長野県就労支援事業者機構理事会 (ホテル国際21)
- 北佐久地区保護司会定例研修会

二月の定期駐在

保護区	観察官	実施日	駐在場所
北佐久	渡辺	一三日(金)	北佐久地区更生保護サポーターセンター
松本	宮下	一九日(木)	松本地区更生保護サポーターセンター
上田	千葉	二〇日(金)	上田地区更生保護サポーターセンター

ホームページの開設

この度、令和八年二月から、長野県内の各更生保護団体(長野県保護観察協会、長野県保護司会連合会、長野県更生保護女性連盟、長野県就労支援事業者機構、長野県BBS連盟)のホームページを開設したので、お知らせします。



(https://naganohogo.wixsite.com/my-site-1)

編集後記

巻頭言は前長野地方検察庁検事正北岡克哉様にご寄贈いただきました。ご多忙のなか、ありがとうございます。また、作文コンテストの作品に感動していただけましたか? これからも、子どもたちが作文にすること、他者への視野を広げてくれることを願っています。また、そのような機会を与えてくれる教師の皆さんの存在をありがとうございます。さて、先日、我が家でネット詐欺騒ぎが起こり連日対策に苦慮しましたが、今回は大事には至りませんでした。指一本でお金が動き、個人情報などが広まってしまふ現代、便利なものには危険が伴うこと、また、自己責任であることを思い知らされました。皆さま、まずは、パスワードの使い回しにはご注意ください。冬も終盤となりました。あとひと踏ん張りです。明るい春を迎えられますように。(北信地区編集委員 金子 澄子)

編集人 発行人

ながの保護だより編集委員会 (長野県保護観察協会)

発行所 (長野県保護観察協会) 長野市旭町一〇八 定価三五円
印刷所 中外印刷株式会社 長野市大字大豆島三八九三一一〇